

◎平成 25 年度の相談状況

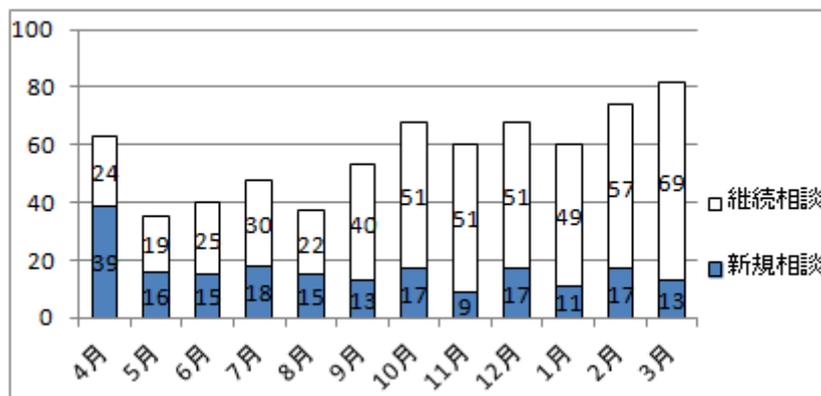
- ・ 平成 25 年 4 月より、子ども青少年課内に「ひきこもり等子ども・若者相談支援センター」を設置し、相談支援を開始。
- ・ 社会福祉士 1 名、臨床心理士 1 名でスタートし、9 月から臨床心理士 1 名が加わり、3 名体制で対応。



※面接室

【H25 年度月別延べ相談件数】

新規相談が 200 件、継続相談が 488 件、合計延べ相談件数は 688 件。



電話相談が 148 件、面接相談が 540 件。

【新規相談内訳】

<年齢>

10 代が 34.0%、20 代が 30.0%、30 代が 23.5%と続く。一定数 40 代以上の方の相談もある。

～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代～	不明	計
68	60	47	19	6	200
(34.0%)	(30.0%)	(23.5%)	(9.5%)	(3.0%)	

<性別>

約 7 割が男性対象者についての相談。

男性	145	(72.5%)
女性	47	(23.5%)
不明	8	(4.0%)
計	200	

<初回相談者>

初回は約 90%がご家族からの相談。ご本人またはご家族の了承のもと、他機関より事前連絡があり、新規に相談を受けたケースも数件あった。

本人	10	(5.0%)
本人と家族	4	(2.0%)
家族・その他	186	(93.0%)
計	200	

<相談内容>

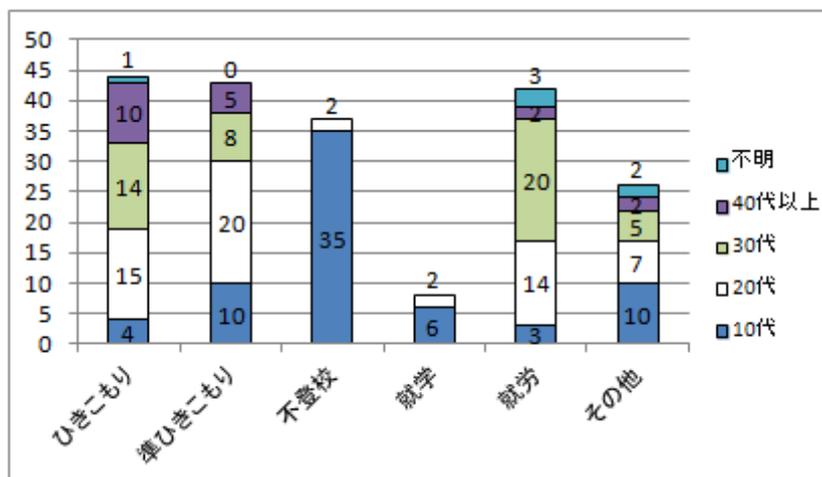
ひきこもりと準ひきこもり相談が合わせて 40.0%、続いて就労相談が 24.3%、不登校相談が 16.1%。

ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計
48	44	37	10	56	35	230
(20.9%)	(19.1%)	(16.1%)	(4.3%)	(24.3%)	(15.3%)	

(複数選択あり)

—年代×内容—

ひきこもりと準ひきこもり相談及び就労相談は 20 代、30 代が中心。ひきこもり相談に 40 代が一定数あり、準ひきこもりに比べ、ひきこもり相談になるほど年齢層が上がる傾向。一方で、10 代の不登校相談の多さも特徴的。



※上記、年代と相談内容別の件数は、主な相談内容をひとつにして集計。

【支援内容】

- 1回の電話及び面接相談で、助言や適切な窓口につないで終了したケース
新規相談 200 件中、99 件。終了の例としては、適切な支援機関の情報提供や、家族の関わり方についての助言を行ったもの。
- 複数回の相談を重ねて助言や他機関へのつなぎ及び、継続相談となっているケース
新規相談 200 件中、101 件。継続相談の形としては、ご家族のみ相談、ご家族からのつなぎでご本人と相談、ご家族とご本人両方と相談のものなど。
- 訪問支援

家庭訪問	22	継続相談の中で、必要に応じて訪問支援を行った。 ご自宅へ伺って、ご本人のお話をお聴きする家庭訪問は、 22 件。ご本人またはご家族と一緒に各窓口に同行する同行 訪問は、11 件。
同行訪問	11	
	33	

<相談内容>

ひきこもり	準ひきこもり	不登校	就学	就労	その他	計
30	32	26	5	24	31	148
(20.3%)	(21.6%)	(17.6%)	(3.4%)	(16.2%)	(20.9%)	

(複数選択あり)

【訪問支援】

家庭訪問	35
同行訪問	15
計	50

【居場所支援「ひらぼ」】

H26.6～毎週水曜日。H27.1～は月1イベントを追加実施。

開所回数	38
参加延べ人数	62

【家族の会】

H26.7～月に1回開催。2月までに計7回実施（11月は日程の都合により不開催）。

参加延べ人数	27
--------	----